

脂粉乳ヲ謂フ
牛乳營業者ト稱スルハ牛乳ノ搾取、處理若ハ
販賣又ハ乳製品ノ製造若ハ販賣ヲ營業ト爲ス
者ヲ謂フ

牛乳ノ處理ト稱スルハ牛乳ヲ濾過シ、小分シ
且殺菌スルノ操作（生乳ニ在リテハ殺菌ヲ除
ク）ヲ謂フ

第二條
牛乳（特別牛乳ヲ除ク）ノ搾取ノ營業ヲ爲サン
トスル者ハ搾取場所所在地ノ地方長官（東京府
テハ警視總監）ニ届出ヅベシ
以下之ニ倣フ）

脂粉乳ヲ謂フ
牛乳營業者ト稱スルハ牛乳又ハ乳製品ノ搾
取製造販賣又ハ請賣ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ

第四條
牛乳ノ搾取又ハ乳製品製造ノ營業ヲ
爲サントスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クベ
シ

地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術
員ヲシテ牛乳又ハ乳製品ヲ取扱フ場所ノ構
造設備ヲ検査セシムベシ
第二十三條、東京府ニ在リテハ地方長官ノ職
務ハ警視總監之ヲ行フ

第三條

特別牛乳ノ搾取若ハ其ノ他ノ牛乳ノ處理又ハ
乳製品ノ製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ其ノ
作業場所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

第四條

牛乳營業者ハ左ノ牛ヨリ牛乳ヲ搾取スルコト
ヲ得ズ

- 一 牛痘、炭疽、氣腫疽、牛肺疫、口蹄疫、
狂犬病、乳房結核、重症肺結核、汎發
結核、著シク榮養ヲ害セル結核諸症、
牛痘、黃疸、放線菌病、胃腸炎、乳房
炎、膿毒症、敗血症、尿毒症、中毒、
腐敗性子宮炎又ハ熱性諸病ニ罹レル牛

- 二 エゼリン、ストリキニーネ其ノ他ノア
ルカロイド若ハ其ノ塩類、ホミカ、阿
片末、ロート葉、コロト根、ヒヨクス葉、
マンダラ葉、リロ根、石炭酸、粗製ク

右ニ同シ

第五條
牛乳營業者ハ左ノ牛ヨリ牛乳ヲ搾取
スルコトヲ得ズ

- 一 牛痘、炭疽、傳染性胸膜肺炎、流行性
鵝口瘡、狂犬病、結核、痘瘡、黃胆、
「アグチノミコーゼ」、氣腫疽、赤痢、
乳腺病、膿毒症、尿毒症、敗血症、中
毒、亞布答、腐敗性子宮炎其ノ他熱性
諸病ニ罹レル牛

二 牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥服用中ノ

三 分娩後七日以内ノ牛

（參照）

○牛乳營業取締規則第五條牛乳中ニ移行ス

ヘキ毒藥劇藥處方ニ關スル件

第一條 牛乳中ニ移行スヘキ毒藥劇藥品

目左ノ如シ

石炭酸

安知母紐膜塩類

砒素及其ノ化合物

銅塩類

越攝利涅、斯簿利幾尼涅其ノ他

「アルカロイド」及其ノ塩類

菲沃斯草

別刺敦那草

水銀塩類

沃度加留謨

阿片

四 分娩後七日以内ノ牛

牛

レゾール、巴豆油、ロカイ、ヨロドカリ、砒素若ハ其ノ化合物、アンチモン塩類、水銀塩類、銅塩類、亞鉛塩類、鉛塩類又ハ之ヲ含有スル製劑ヲ服用シ又ハ注射シタル後三日以内ノ牛

三 細菌學的製劑ヲ注射シ著シキ反應アル

第五條

牛乳營業者ハ乳牛ニシテ前條第一號ノ疾病若ハ同條同號以外ノ結核又ハ傳染性流産ニ罹レ

鉛塩類
藜蘆根
番木鱧子
亞鉛塩類

以上ノ藥品ヲ含有スル諸製劑

○牛乳營業取締規則第五條適用方(明三六、

六、一、内務省訓令第三八三號)

結核ニ付テ第五條ヲ適用スルハ檢診上左ノ

各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一 乳房結核

一 重症肺結核

一 汎發結核

一 前各號ノ外著シク榮養ヲ損害セル結

核諸症

○牛乳營業取締規則第五條牛乳中ニ移行ス

ヘキ毒藥劇藥處方ニ關スル件(明三三、一

ル疑アリト認ムルトキハ直ニ獸醫師ノ診断ヲ受クベシ

獸醫師前條第二號若ハ第三號ノ藥品ヲ乳牛ニ對シ内用トシテ處方シ又ハ注射シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ牛乳營業者ニ告知スベシ

第六條

牛乳營業者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル牛乳ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ運搬又ハ貯藏スルコトヲ得ズ但シ第五號、第六號又ハ第七號ノ牛乳ヲ乳製品其ノ他ノ飲食物ノ製造原料ニ供スル目的ヲ以テスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 腐敗シタルモノ
- 二 苦味アルモノ若ハ粘稠ナルモノ又ハ藍色、赤色其ノ他異常ノ色ヲ呈スルモノ
- 三 他物ノ混ジタルモノ

○二〇内務省令

第二條 獸醫師前條ノ毒藥劇藥ヲ處方シタルトキハ其ノ旨ヲ牛乳營業者ニ告知スベシ

第七條

牛乳營業者ハ左ノ牛乳ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ運搬シ若ハ貯藏スルコトヲ得ズ

- 一 腐敗シタルモノ
 - 二 粘稠若ハ苦味ナルモノ又ハ藍色、赤色其他異常ノ色ヲ呈スルモノ
 - 三 他物ノ混合シタルモノ
 - 四 第五條ノ牛ヨリ搾取シタルモノ
 - 五 第二條ノ規定ニ適合セザルモノ
- 第二條 牛乳ノ比重ハ攝氏十五度ニ於テ全乳

四 第四條ノ牛ヨリ搾取シタルモノ

五 攝氏十五度ニ於テ比重一・〇二八ニ滿タズ若ハ一・〇三四ヲ超ユル全乳又ハ處理シタル全乳ニシテ百分中三・〇分以上ノ脂肪量ヲ有セザルモノ

六 攝氏十五度ニ於テ比重一・〇三二ニ滿タズ若ハ一・〇三八ヲ超ユル脱脂乳又ハ百分中八・五分以上ノ乾燥物質質量ヲ有セザル脱脂乳

七 十立方ミリメートル中ノ細菌數二萬以上ノモノ
前項但書ノ場合ニ於テハ牛乳ノ容器ニ原料牛乳ナル旨ヲ明記スベシ

第七條

牛乳營業者ハ左ノ各號ニ該當スル全乳ニ非ザレバ之ニ特別牛乳ナル名稱ヲ附シテ販賣シ又

ニ在リテハ一・〇二八乃至一・〇三四トシ脱脂乳ニ在リテハ一・〇三二乃至一・〇三八トス
全乳ノ脂肪量ハ百分中三・〇分以上トス
脱脂乳ノ乾燥物質質量ハ百分中八・五分以上トス

該當條文ナシ

ハ販賣ノ目的ヲ以テ運搬若ハ貯藏スルコトヲ得ズ

- 一 同一營業者ガ第二十五條ノ規定ニ依ル牛舎ニ於テ結核又ハ傳染性流産ニ罹ラザル乳牛ヨリ搾取シ且同條ノ規定ニ依ル牛乳處理場ニ於テ處理シタルモノ
 - 二 生乳又ハ低溫殺菌方法ニ依リ殺菌シタルモノ
 - 三 百分中三・三分以上ノ脂肪量ヲ有スルモノ
 - 四 十立方ミリメートル中ノ細菌數五百以下ノモノ
- 牛乳ニハ前項ノ規定ニ依リ特別牛乳ナル名稱ヲ附スルノ外小兒用牛乳優良牛乳其ノ他品質ノ優良ナルコトヲ暗示スル名稱ヲ附シテ之ヲ

第八條

販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ運搬若ハ貯藏スルコトヲ得ズ

- 牛乳營業者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル乳製品ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列若ハ貯藏スルコトヲ得ズ
- 一 腐敗シタルモノ
- 二 他物(蔗糖ヲ除ク)ノ混ジタルモノ
- 三 第六條第一項第一號乃至第四號ノ牛乳ヲ原料ト爲シタルモノ
- 四 百分中八・〇分(蔗糖ヲ加ヘザル煉乳ニ在リテハ百分中七・〇分)以上ノ脂肪量ヲ有セザル煉乳又ハ百分中五五・〇分以上ノ糖量ヲ有スル煉乳若ハ脱脂煉乳
- 五 百分中二〇・〇分以上ノ脂肪量ヲ有セズ若ハ百分中五〇・〇分以上ノ糖量ヲ

第八條 牛乳營業者ハ前條第一號乃至第四號

ノ牛乳ヲ乳製品ノ原料ト爲スコトヲ得ズ

第九條 牛乳營業者ハ左ノ乳製品ヲ販賣シ又

ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコ

トヲ得ズ

- 一 腐敗シタルモノ
 - 二 他物ノ混合シタルモノ
 - 三 第六條ノ容器ヲ用キタルモノ
 - 四 第七條第一號乃至第四號ノ牛乳ヲ原料トナシタルモノ
 - 五 第三條ノ規定ニ適合セザル煉乳又ハ脱脂煉乳
- 第三條 煉乳ノ脂肪量ハ百分中八・〇分以上

有スル粉乳又ハ百分中六〇・〇分以上ノ糖量ヲ有スル脱脂粉乳

第九條

牛乳營業者牛乳ノ殺菌ヲ爲サントスルトキハ低溫殺菌方法又ハ高溫殺菌方法ニ依ルベシ
地方長官土地ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ前項ノ殺菌方法ヲ其ノ一ニ制限スルコトヲ得

低溫殺菌方法ト稱スルハ攝氏六十三度乃至六十五度ニ於テ三十分間加熱スルコトヲ謂ヒ高溫殺菌方法ト稱スルハ攝氏九十五度以上ニ於テ二十分間加熱スルコトヲ謂フ

第十條

牛乳營業者ハ第四條第一號以外ノ結核又ハ傳染性流産ニ罹レル牛ヨリ搾取シタル牛乳ハ之ヲ殺菌スベシ

トス

煉乳又ハ脱脂煉乳中ニ混和スル蔗糖量ハ乳糖ヲ合算シテ百分中五五・〇分以下トス
該當條文ナシ

該當條文ナシ

第十一條

牛乳營業者ハ牛乳ヲ冷却保持スベシ但シ處理シタル牛乳ヲ貯藏スル場合ハ高溫殺菌方法ニ依リ殺菌シタルモノヲ除クノ外攝氏十度以下ナルコトヲ要ス

該當條文ナシ

第十二條

牛乳營業者ハ第二十四條ノ規定ニ依ル牛乳處理場ニ於テ處理(脱脂乳ニ在リテハ脱脂ノ操作ヲ含ム)シタル牛乳ニ非ザレバ之ヲ牛乳營業者以外ノ者ニ販賣スルコトヲ得ズ
地方長官必要アリト認ムルトキハ飲食物ノ製造原料ニ供スル牛乳ニ付前項ノ規定ニ拘ラズ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

該當條文ナシ

第十三條

牛乳營業者ハ牛乳ヲ配布スル容器ニハ著色セザル透明ノ硝子壺ヲ用ウベシ但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタル容器又ハ乳製品其ノ他ノ飲食物ノ製造原料ニ供スルモノノ容器ニ付テハ此

第十條 牛乳營業者ハ牛乳ヲ配布スル容器ニ

全乳又ハ脱脂乳タルコトヲ明記シ煉乳ノ容器

ニハ煉乳、脱脂煉乳ノ容器ニハ脱脂煉乳タル

コトヲ明記スベシ

ノ限ニ在ラズ
前項ノ容器ニハ左ノ各號ノ事項ヲ明記シ之ヲ
密閉スベシ

一 全乳(特別牛乳ニ在リテハ特別牛乳)又
ハ脱脂乳ノ別

二 營業者ノ氏名(法人ニ在リテハ名稱)
又ハ商號

三 販賣ノ月日又ハ曜日

四 生乳、低溫殺菌又ハ高溫殺菌ノ別

第一項ノ容器ニハ前項ニ掲グル事項ノ外小
兒用其ノ他牛乳ノ品質ニ關スル記載ヲ爲ス
コトヲ得ズ

牛乳營業者ハ乳製品ノ容器又ハ被包ニ左ノ各
號ノ事項ヲ明記スベシ

一 煉乳、脱脂煉乳、粉乳又ハ脱脂粉乳ノ

右ニ同ジ

第十四條

別並ニ蔗糖ヲ加ヘタルモノニ在リテハ
加糖ノ文字

二 製造者(輸入又ハ移入ニ係ルモノニ在
リテハ發賣者)ノ氏名(法人ニ在リテ
ハ名稱)又ハ商號及其ノ主タル營業所
所在地

三 製造(輸入又ハ移入ニ係ルモノニ在リ
テハ輸入又ハ移入)ノ年月

牛乳營業者ハ亞鉛、銅又ハ其ノ合金ニテ製シ
タルモノヲ牛乳又ハ乳製品ノ容器量器等トシ
テ使用スルコトヲ得ズ但シ牛乳又ハ乳製品ニ
接觸スル部分ニ鍍錫其ノ他ノ方法ヲ施シ衛生
上有害ノ虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラズ
牛乳營業者ハ牛乳ノ容器、量器等ヲ使用セン
トスルトキハ之ニ適當ナル滅菌方法ヲ施スベ

牛乳營業者ハ全乳ト記シタル容器ニ脱脂乳、
煉乳ト記シタル容器ニ脱脂煉乳ヲ容ルルコト
ヲ得ス

第六條 牛乳營業者ハ亞鉛、銅、黃銅、燒附

不良ニシテ且有害ノ釉藥ヲ施シタル陶器又
ハ含鉛珐瑯ヲ塗布シタル鐵材料ニテ製シタ
ルモノヲ牛乳又ハ乳製品ノ容器又ハ量器ト
シテ使用スルコトヲ得ズ

第十一條 牛乳營業者ハ牛乳又ハ乳製品ノ容
器、量器及牛乳又ハ乳製品ヲ取扱フ場所ヲ

第十五條

第十六條

第十七條

シ但シ牛乳ヲ壘詰ノ儘高温殺菌方法ニ依リ殺菌スル場合ノ硝子壘ハ此ノ限ニ在ラズ
 牛乳營業者ハ牛乳又ハ乳製品ノ容器、量器等及牛乳又ハ乳製品ノ取扱ノ場所竝ニ乳牛ヲ常ニ清潔ニ保持スベシ
 牛乳營業者ハ傳染病患者（病原體保有者ヲ含ム）、結核患者又ハ癩患者ヲシテ牛乳ノ搾取若ハ處理ノ各操作又ハ乳製品ノ製造ニ從事セシムルコトヲ得ズ牛乳營業者ニシテ其ノ患者ナルトキ亦之ニ準ズ
 地方長官必要アリト認ムルトキハ牛乳營業者ニ對シ醫師ヲ指定シテ營業者又ハ其ノ從業者ノ健康診斷書ノ提出ヲ命ズルコトヲ得
 地方長官ハ當該官吏ヲシテ牛乳營業者ノ牛ヲ檢診セシメ又ハ牛乳若ハ乳製品ヲ取扱フ場所

第十八條

常ニ清潔ニ爲スベシ
 第十二條 牛乳營業者ハ結核病、癩病、梅毒及傳染病ニ罹レル者ヲシテ牛乳、乳製品若ハ其ノ容器、量器ノ取扱ヲ爲サシメ又ハ其ノ取扱ヲ爲ス場所ニ立入ラシムルコトヲ得ズ牛乳營業者ニシテ其ノ疾病ニ罹レルトキ亦之ニ準ズ
 第十四條 地方長官ハ當該官吏又ハ衛生技術員ヲシテ牛乳營業者ノ牛ヲ檢診セシメ一定

第十九條

ノ構造設備ヲ檢査セシムルコトヲ得
 地方長官ハ第四條ノ牛、第六條第一項ノ牛乳、第八條ノ乳製品、第十條若ハ第十二條ノ規定ニ違反スル牛乳又ハ第十五條ノ容器ヲ用キタル牛乳若ハ乳製品ニ關シ明治三十三年法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得 本令ニ違反シタル牛乳營業者ニ關シテ亦同ジ

ノ疾病ニ罹レル牛ニハ其ノ角ニ番號若ハ符號ヲ烙記セシメ又ハ其ノ耳朶ニ番號若ハ符號ヲ記セル耳環ヲ付セシムルコトヲ得
 前項ノ番號符號又ハ耳環ハ官吏ノ許可ヲ受クルニ在ラレハ之ヲ消除シ又ハ除去スルコトヲ得ス
 第四條第二項 地方長官本條ノ認可ヲ爲ストキハ衛生技術員ヲシテ牛乳又ハ乳製品ヲ取扱フ場所ノ構造設備ヲ檢査セシムヘシ
 第十五條 地方長官ハ第五條ノ牛第六條ノ容器ヲ用キタル牛乳乳製品第七條各號ノ牛乳第九條各號乳製品ニ關シテハ明治三十三年法律第十五號第一條ニ依リ處分スルコトヲ得
 本則ニ違背シタル營業者ニ關シテ亦同ジ

第二十条

地方長官ハ本令ノ執行ニ關シ明治三十三年法律第十五號第二條ノ職權ヲ行フコトヲ得

第十六條 地方長官ハ本則ノ執行ニ關シテ明

治三十三年二月法律第十五號第二條ノ職權ヲ

行フコトヲ得

第二十一条

左ニ掲グル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十八條 左ニ掲クル者ハ百圓以下ノ罰金ニ

處ス

一 許可ヲ受ケズシテ第三條ノ營業ヲ爲シタル者

一 認可ヲ受ケスシテ第四條ノ營業ヲ爲シタル者

二 第四條、第六條第一項、第七條、第八條、第十條、第十二條、第十五條又ハ

二 第五條乃至第九條ニ違背シタル者

第十七條第一項ノ規定ニ違反シタル者

(改正案第二十一條第二號中「第十七條第一項」ニ該當スルモノハ現行規則ニテハ第十九條ニ在リ)

左ニ掲グル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十九條 第十條乃至第十三條ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

○牛乳營業取締規則第五條牛乳中ニ移行ス

ヘキ毒藥劇藥處方ニ關スル件

第三條 獸醫前條ニ違背シタル者ハ一圓

第二十一条

一 第二條、第五條、第六條第二項、第九條第一項、第十一條、第十三條第一項、同條第三項又ハ第十六條第二項ノ規定

ニ違反シタル者

九十五圓以下ノ科料ニ處ス

二 第十三條第二項又ハ第十四條ノ規定ニ

依ル表示ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ表示ヲ爲

シタル者

三 第十七條第二項ノ命令ニ従ハザル者

四 第十八條ノ檢診若ハ檢査ヲ拒ミ又ハ妨

ゲタル者

第二十条

牛乳營業者ガ未成年者、禁治産者又ハ法人ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人又ハ代表者ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十条 牛乳營業者ガ未成年者又ハ禁治産

者ナルトキハ本則ニ依リ之ニ適用スヘキ罰

則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業

ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年

者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

牛乳營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居

者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關

シ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出

ザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十
四條

牛乳處理場及特別牛乳ノ用ニ供スル乳牛ノ牛
舎ノ構造設備及管理方法ハ地方長官之ヲ定ム

第二十
五條

第二條、第四條乃至第六條、第十條、第十二
條及第十七條乃至前條ノ規定ハ直接販賣ノ用
ニ供セザル牛乳ニシテ販賣ノ用ニ供スル飲食
物ノ製造原料ニ充ツルモノニ之ヲ準用ス

五〇

テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者
法人ノ業務ニ關シ本則ニ違背シタル場合ニ
於テハ本則ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用
ス
法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者
ヲ以テ被告人トス
第二十二條 乳牛ノ牛舎及牛乳ノ搾取若ハ乳
製品製造ニ用ユル場所ノ構造設備及管理方
法ハ地方長官之ヲ定ム

該當條文ナシ

左ノ條文ハ削除ス

第十三條 牛乳營業者ハ傳染性ノ病疾ニ罹レ
ル牛ノ隔離ヲ行フヘシ
第十七條 第十四條第二項ニ違背シタル者ハ
百圓以下ノ罰金又ハ拘留ニ處ス

第二
二回

昭和八年七月十八日午前十時ヨリ内務省會議室ニ於テ開會

出席者 委員長 柳澤伯爵

瀬川、北島、佐伯、唐澤、三宅(秀)、古瀬、武藤、津野各委員

藤原、南崎、野邊地各幹事

池田技師

一、前回ニ引續キ牛乳營業取締規則改正省令案第七條ニツキ審議シ正午散會

第三
三回

昭和八年七月十九日午前十時ヨリ内務省會議室ニ於テ開會

出席者 委員長 柳澤伯爵

佐伯、唐澤、三宅(秀)、古瀬、武藤、津野、大島各委員
藤原、南崎、野邊地各幹事
池田技師

一、委員長開會ヲ宣シ第七條ニツキ更ニ質疑應答ヲ重ネ引續キ第八條ヨリ第十二條マデ審議シ正午散會

第四回

昭和八年七月二十一日午前九時ヨリ内務省會議室ニ於テ開會

出席者 委員長 柳澤伯爵

佐伯、三宅(秀)、古瀬、武藤、津野、大島各委員

藤原、南崎、野邊地各幹事

池田技師

議事ノ經過

一、前回ニ引續キ第十三條ヨリ第二十五條マデ一應審議ヲ了ス

一、委員長ヨリ連日ニ互リ幹事案ニツキ説明ヲ聽キ質疑應答ヲ重ネ意見ノ開陳アリタレバ其ノ審議ノ

結果ニ基ツキ本案ヲ整理シ再ビ提出アリタシト述ブ、之ニ對シ大島委員ヨリ小委員設置ノ動議ヲ出シ全委員賛成ノ下ニ唐澤、武藤、津野、大島ノ四委員小委員ニ選バル、終リテ佐伯委員ヨリ衛生的取締ヲ遺憾ナカラシムルタメ牛乳場ノ配達者ト空場ノ蒐集者トハ全然別ノ人ヲ以テ之ニ當ラシメタキヲ以テ小委員會ニ於テモ此ノ點ヲ考慮セラレタシト希望意見ヲ述ベラレ午前十一時三十分散會

牛乳搾取場視察

昭和八年八月五日午前九時内務省出發

委員長 柳澤伯爵

瀬川、北島、武藤、津野各委員

藤原、南崎、野邊地各幹事

池田技師

習志野興真舎牧場並千葉縣畜産組合聯合會經營精乳園ヲ視察ス、尙委員長ハ歸途行徳町ニ於ケル飲料水改善狀況ヲ視察セラル

牛乳處理場視察

昭和八年八月十四日午前九時内務省出發

委員長 柳澤伯爵

北島、佐伯、古瀬、武藤、津野各委員

藤原、南崎、野邊地各幹事

池田技師

明治ミルクプラント(本所區龜澤町)並中央ミルクプラント(日本橋區箱崎町)ヲ視察ス

第五回

昭和八年九月一日午前十時ヨリ内務省會議室ニ於テ開會

出席者 委員長 柳澤伯爵

北島、佐伯、唐澤、横手、武藤、津野、大島各委員

南崎、野邊地各幹事

池田技師

議事ノ經過

一、委員長開會ヲ宣シ池田技師ヨリ小委員會ノ經過及結果ニツキ次ノ通り報告アリ

小委員會ハ八月四日午前九時ヨリ正午マデ内務省會議室ニ於テ開會シ唐澤、武藤、津野各小委員、藤原、南崎、野邊地各幹事、池田技師ノ外横手委員モ出席セラル

小委員會ニ於テ原案ヲ修正シ又ハ希望意見ヲ附シタル事項

(1) 第四條第二號ニツキ「ヨードカリ」「銅塩類」等トアルヲ「ヨード」「銅」又ハ之等ヲ含有スル製劑トシ

「ストロキニーネ」ヲ削除シテ「モルヒネ」等ヲ加フルコト

(2) 第四條第三號ヲ「細菌學的製劑ヲ注射シ著シキ反應アル牛又ハ炭疽ノ生菌豫防液ヲ注射シタル後

九日以内ノ牛」トスルコト

(3) 第二十四條ヲ第十八條トシ原案ノ第十八條以下ヲ順次繰下ゲタルコト

(4) 牛乳ノ原始酸度、瞬間殺菌方法、山羊乳ノ取締ニ關シテハ更ニ將來ノ研究ニ俟ツテ善處スルコト

一、右ニツキ質疑應答アリタル後小委員會ノ修正意見ノ通り可決シ改メテ委員長ヨリ總會ニ報告スル

コトニ決ス、尙佐伯委員ヨリ前回ノ特別委員會ニ於テ希望セラレタル牛乳壘ノ汚染ヲ防止スル方法

ニツキ質問アリ、審議ノ結果佐伯委員ノ意見ハ望マシキコトナルモ、一面營業者ノ負擔モ加ハリ乳

價ノ騰貴ヲ促ガス虞モアレバ、省令ニテハ清潔保持規定トスル程度ニ止メ、之ガ運用ニ際シ地方廳

ニ於テ善處セシムルコト、シ午前十一時二十分散會

二、農村衛生狀態改善ニ關スル特別委員會

第十五回

昭和八年七月七日午後一時三十分ヨリ内務省會議室ニ於テ開會

出席者 委員長 柳澤伯爵

宮川、佐伯、唐澤、矢作、那須、大島各委員

藤原、南崎各幹事

一、委員長開會ヲ宣シタル後農村衛生改善施設ニ就テハ豫テ報告書ノ配布モ受ケテキルガ、本日ハ其ノ要點ニツキ玉木群馬縣衛生課長ヨリ御話ヲ承ハルベキ旨ヲ述ベラル

一、玉木課長御命令ニ依リ群馬縣下ニテ實施セル村落榮養改善實施成績ニツキ御報告申上ケルトテ大體左記ニ依リ其ノ成績ノ概要ヲ所述ス

村落榮養改善實施成績ノ概要

本縣ニ於テハ昭和六年榮養技手設置以來學校、工場、農村等各方面ニ榮養改善ヲ實施シ來リ其ノ成績見ルベキモノアリ、特ニ昭和七年三月以降一ケ年間ニ互リ管下北甘樂郡福島町大字小川字多井戸ノ二

三戸一六一名ニ對シ統制アル献立ト調理トヲ以テ各戸ニ榮養改善ヲ實施シタルガ其ノ概要次ノ如シ

一、實施村落ノ狀況

本村落農家ノ農業經營ハ耕種養蠶ヲ主トシ若干ノ養畜ヲ配セルモノニシテ一般ニ本縣ノ平均以上ノ勞働ニ従事シツツアリ、而モ榮養攝取ノ狀況ハ猶一般農村ニ於ケルト同様諸種ノ缺陷ヲ有ズ、其ノ概要ヲ擧グレバ第一本村落實際攝取榮養量ニ、四〇〇—二、八〇〇—カロリヲ攝取シツツアリテ、日本人榮養求量ニ、四〇〇—カロリニ比較シ一見不足ナキガ如キモ、農民ハ普通標準量ニ比シ一般ニ多量ノ基礎新陳代謝量ヲ示シ、殊ニ農繁期ニ於テハ三、〇〇〇—三、二〇〇—カロリ或ハソレ以上ヲ必要トスルニ右ノ量ニテハ充分ナル榮養量ヲ確保シ居ラザルコト、第二蛋白質無機質ビタミン等ノ必要成分充分ナラズ殊ニ動物性蛋白質ノ攝取量極メテ少量ナルカ或ハ全然欠如シ、而モ其ノ攝取方法拙劣ナルコト、第三ニ成分相互間ノ關係宜シカラズ例ヘバ混砂白米ヲ使用スル爲ビタミンBヲ期待シ得ズ、其ノ結果ビタミンBト他成分トノ均衡ヲ缺キ或ハ全然動物性蛋白質乃至ビタミンB缺ク等ニ依リ體內ニ於ケル有機的關係ヲ圓滿ニ遂行シ得ザル等ノ缺陷ヲ有ス

生産、死産、死亡等大正十一年ヨリ昭和六年ニ至ル最近十ケ年間ノ狀況ハ左表ノ如クニシテ生産人口千對三三・七死産人口千對二・七五死亡人口千對一七・八九ニシテ生産ハ群馬縣ノ平均ヨリ低ク全國平均ヨリ高ク死産ハ群馬縣及全國平均ニ比シ高ク死亡ハ群馬縣平均ヨリ高ク全國平均ヨリ低ク乳

兒死亡率ハ群馬縣及全國ノ平均ニ比シ著シク高シ

全 國	群馬縣	多井戸	生 産 死			死 亡		乳兒死亡率
			産	死	産	死		
三二・三五	三五・〇〇	三三・七二	二・三五	一・八三	一八・一七	一四・一九	一一・四	
			二・七五	一・七四	一七・四八	一七・五一	一二・九	
			二・七五	一・七四	一七・四八	一七・五一	一二・九	
			二・七五	一・七四	一七・四八	一七・五一	一二・九	
			二・七五	一・七四	一七・四八	一七・五一	一二・九	
			二・七五	一・七四	一七・四八	一七・五一	一二・九	
			二・七五	一・七四	一七・四八	一七・五一	一二・九	
			二・七五	一・七四	一七・四八	一七・五一	一二・九	
			二・七五	一・七四	一七・四八	一七・五一	一二・九	

疾病蔓延ノ狀況ハ檢診人員一三四人ニ對シ疾病三七〇ニシテ一人平均二・七六症ヲ有シ(一人ニテ數種ノ疾病ヲ有スルニ依ル)其ノ疾病ノ分類ハ大多數寄生蟲病ニシテ十二指腸蟲卵保有者三三・五八% 蛔蟲卵保有者七〇・九〇% 鞭蟲保有者三二・八四% 其ノ他ノ寄生蟲卵保有者三・七二% 初メトシ齶齒三七・三% トラホーム二一・六% 腸胃カタル一八・七% 扁桃腺炎一四・九三% 頸部淋巴腺炎一・九四% 感冒六・七二% 結膜炎五・九七% 皮膚病五・二二% 氣管支炎二・九九% 結核二・二三% ニシテ可ナリ多數ノ疾病蔓延セリ、而シテ之ヲ總括スレバ死産數甚タ高キコト、乳兒死亡率著シキ高キコト、疾病甚ダシク蔓延シ居リ衛生狀態良好ナラザルコトヲ知ル、而シテ榮養改善着手ト同時ニ寄生蟲驅除ヲ實施シタリ

二、對照村落ノ狀況

對照村落ハ福島町ヲ距ル一里餘ノ地點ニシテ環境極メテ類似セル〇〇村〇〇區ヲ選定セリ、戶數三七戶人口二五〇人ニシテ農家農業經營ノ狀況並生活狀況等略多井戸區ト同様ナリ

對照村落ニ對シテハ寄生蟲ノ檢査驅除ノミヲ實施シ榮養改善ハ全然之ヲ行ハス對照ニ便セリ

三、榮養改善ノ方法

保健ト經濟ノ見地ヨリ榮養改善實施ノ要點ハ(1)單位式献立法(佐伯博士創案)ノ原則ニ準據シ(2)主食品中米ハ標準精米(無砂無洗七分搗米)ヲ用ヒ、麥ハ可及的搗精度低キモノヲ用ヒ小麥粉ハ單用ヲ避ケタリ、(3)經濟榮養ノ原則ニ從ヒ價格廉ニシテ其ノ質優良ナル食品(殊ニ蛋白質性食品、脂肪性食品)ヲ選ミ其ノ配合ノ均衡ニ留意シ且廢棄部分ノ合理的の使用ニ努メ(4)調理方法並食事力ヲ科學的ナラシム

榮養改善指導ノ方法ハ村民特ニ婦人ヲ目標トシテ榮養知識ノ普及ヲ圖ル爲農閑期ヲ利用シ講演會、座談會等ヲ十數回開催シ且「ボスター」「リーフレット」等ヲ利用シタリ、而シ一世帯消費單位ヲ定メ三月六日ヨリ指導献立ニヨリ囑託指導員ヲシテ朝、晝、夕毎戸ヲ訪問セシメ食品ノ配合調理盛付等一々注意ヲ與ヘ更ニ生活狀況ニ應ジテ食品ノ取捨ヲ加ヘ以テ指導献立ノ活用ニ努ム、更ニ榮養知識ノ普及ハ質疑應答、食卓作法ノ教示且ツハ指導者ヲシテ村民ノ習俗ニ慣レシメ一層ノ徹底ヲ期スル爲指導員ヲシテ戸別ニ毎夕食ヲ共ニセシム

五月二十五日ヨリ七月十三日マテノ農繁期ハ時間的且ツハ理材的經濟ノ増進ヲ圖ラムガ爲副食物ノ
 ミノ共同炊事ヲ實施シタリ、三月五日ヨリ十二月五日迄夏期休暇ヲ除キ學校兒童ノ辨當ヲ給與ヲ實
 施ス、即チ三月ヨリ七月迄ハ前日適當ノ材料ヲ公會堂ニ持寄ラシメ、翌朝囑託員自ラ調理シテ兒童
 持參ノ辨當箱ニ一々給與シ、九月ヨリ十二月迄ハ辨當献立ヲ配布シ毎戸ニ調理セシム
 保健上經濟上優良ナル食品ヲ供給スル爲農事組合ノ活動ニヨリ食品種子食器等ヲ一年間ヲ通シテ共
 同購入ヲナサシム

四、榮養改善ノ實績

(1) 體重ニ及ボセル影響

榮養改善ガ農村民ノ體重ニ對シ如何ナル影響ヲ及ボセルヤニ付多井戸區並對照區ニ就キ體重増減ノ
 經過ヲ觀察セムトスルニ、先ヅ其ノ前提トシテ體重ハ次ノ如キ諸因子ニヨリテ左右セラルルコトヲ
 考慮ニ置キ

- 一 榮 養
- 二 勞働並運動
- 三 睡 眠
- 四 性
- 五 年 齡
- 六 季節的變化
- 七 其ノ他環境
- 八 體 質

九、月 經

兩區體重ノ相違ヲ以テ直ニ榮養ガ體重ノ消長ニ及ボス影響ヲ云々スベカラズ、即榮養給與ノ如何ガ
 體重ノ消長ニ及ボス影響ヲ觀察セムトスルニハ勞働、睡眠、性、年齡、季節的變化等ノ榮養以外ノ諸
 因子ヲ同一ナラシメタル後初メテ之ヲ爲シ得ルモノナリ、今多井戸區並對照區ニ就キテ榮養以外ノ
 諸因子同一ナリヤ否ヤヲ檢討スルニ同區トモ耕種養蠶ヲ主トシ之ニ若干ノ養畜ヲ配セル農業經營ニ
 シテ、勞働、睡眠ニ就キテハ全般的の見地ニ於テ殆ト相違ナシト觀察セラル、唯婦人勞働ニ於テ多井戸
 區ハ五月下旬ヨリ七月上旬ニ互ル農繁期中共同炊事ヲ實施セル爲炊事ニ要スル勞力消費ヲ激減シタ
 ルコトハ考慮セラルベキコトナリ、又性ニ就キテハ兩區トモ同一性ヲ比較スルヲ以テ問題ナシ、茲
 ニ問題トナルハ年齡ノ同一ナラザルコトナリ即チ同年齡同人員ナラザル兩區體重増減ノ比較ハ嚴密
 ナル意味ニ於テ困難ナリ、然シナガラ其ノ體重増減ノ傾向ヲ觀察セムトスルニハ何等差支ヘナシ、
 季節的變化ニ就キテハ兩區其ノ差異ヲ見ズ

以上ヲ要約スレバ兩區體重増減ノ量ニ重點ヲ置カズシテ體重増減ノ傾向ニ重點ヲ置キテ榮養給與ノ

如何ガ及ボス影響ヲ全般的並年齡期別的ニ觀察スルハ最モ妥當ナリトスルモノナリ。

次ニ兩區各其ノ單位體重ニ對スル増減ノ偏倚數ヲ算定シ體重増減ノ傾向ヲ簡明ニセムトス、即チ、
 多井戸區ハ改善前體重ヲ基本トシテ改善一ケ年後ニ於ケル體重増減ノ偏倚ヲ全般的並年齡期別的

算定シタルモノニシテ、對照區ハ五月検査ノ體重ヲ基本トシテ約十ヶ月後ニ於ケル體重増減ノ偏倚ヲ全般の年齢期別のニ算定シタルモノナリ
 今多井戸區男子六十八人女子五十七人ノ體重曲線ノ經過ヲ表ニヨリ示セバ左ノ如シ

検査月日	男子平均體重	増	減	女子平均體重	増	減	備考
三月四日	三七、七九〇 <small>瓦</small>			三〇、六九〇 <small>瓦</small>			改善着手前
四月六日	三八、六五〇 <small>瓦</small>	(+)	八六〇	三一、四九〇 <small>瓦</small>	(+)	八〇〇	
五月一日	三八、五二〇 <small>瓦</small>	(-)	一三〇	三一、六二〇 <small>瓦</small>	(+)	一三〇	
六月一日	三八、六一〇 <small>瓦</small>	(+)	九〇	三一、六一〇 <small>瓦</small>	(-)	一〇	
七月二十一日	三八、三〇〇 <small>瓦</small>	(-)	三一〇	三一、五八〇 <small>瓦</small>	(-)	三〇	
八月二十日	三八、七五〇 <small>瓦</small>	(+)	四五〇	三一、九九〇 <small>瓦</small>	(+)	四一〇	
九月十九日	三八、七三〇 <small>瓦</small>	(-)	二〇	三一、一四〇 <small>瓦</small>	(+)	一五〇	
十月三十日	三九、二七〇 <small>瓦</small>	(+)	五四〇	三一、五〇〇 <small>瓦</small>	(+)	三六〇	
十一月二十日	三九、四九〇 <small>瓦</small>	(+)	二二〇	三一、七九〇 <small>瓦</small>	(+)	二九〇	
十二月二十二日	三九、五八〇 <small>瓦</small>	(+)	九〇	三一、一二〇 <small>瓦</small>	(+)	三三〇	

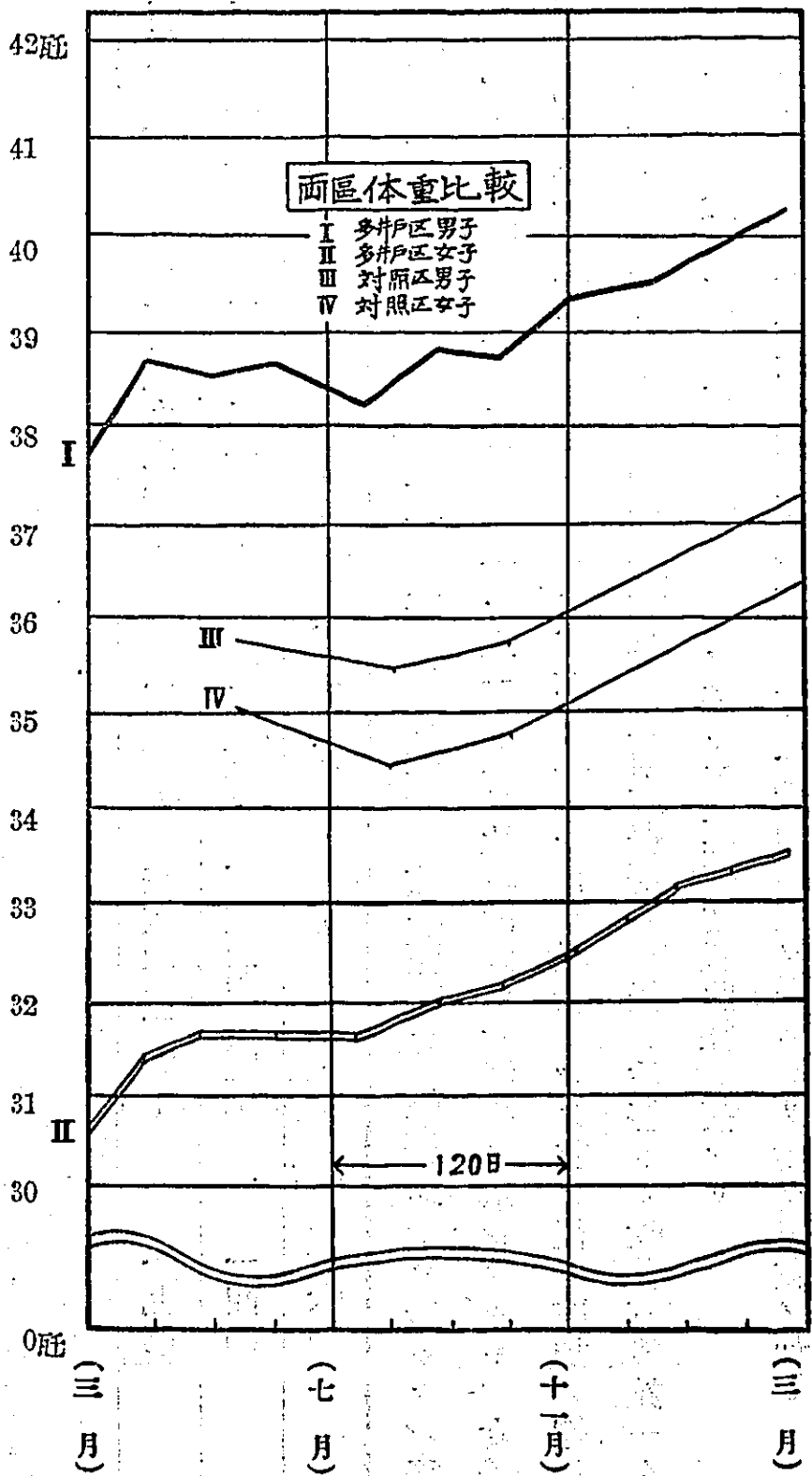
一月二十日	三九、九六〇 <small>瓦</small>	(+)	三八〇	三一、三一〇 <small>瓦</small>	(+)	一九〇
二月二十二日	四〇、二一〇 <small>瓦</small>	(+)	二五〇	三一、四五〇 <small>瓦</small>	(+)	一四〇
合計		(+)	二、四一〇		(+)	二、七六〇

右ノ一般の經過ヲ概観スルニ男子女子共ニ榮養改善實施後顯著ナル體重増加ヲ示シタル後多少ノ増減ヲ來シ、續テ農繁期直後ニ於テ男子ハ三一〇瓦ノ比較的大ナル減少ヲ示シタルモ、女子ハ僅ニ一〇—三〇瓦ノ減少ヲ示シタルモノニシテ、七月二十一日ヲ限度トシテ其ノ後ハ増加ノ趨勢ヲ持續シ結局著シキ體重ノ增高ヲ見タリ、即榮養改善直前並農繁期直後ヲ波谷トシ改善直後並一ヶ年後ヲ波頂トスル週期ノ大ナルN字型(女子ハ少シク淺キN字型)波狀曲線ヲ描ケリ
 對照區男子八十二人女子七十六人ノ體重曲線ノ一般の經過ヲ表ニヨリ示セバ左ノ如シ

検査月日	男子平均體重	増	減	女子平均體重	増	減	備考
五月十日	三五、七九〇 <small>瓦</small>			三五、一一〇 <small>瓦</small>			
七月二十日	三五、四五〇 <small>瓦</small>	(-)	三四〇	三四、四四〇 <small>瓦</small>	(-)	六七〇	
九月二十六日	三五、八一〇 <small>瓦</small>	(+)	三六〇	三四、七六〇 <small>瓦</small>	(+)	三二〇	
十二月十八日	三六、四九〇 <small>瓦</small>	(+)	六八〇	三五、四八〇 <small>瓦</small>	(+)	七二〇	

二月二十四日	三七、二〇〇	七二〇	三六、二八〇	八〇〇
合計	(+)	(+)	(+)	(+)
	一、四二〇	一、四二〇	一、四二〇	一、二七〇

右ノ一般的經過ヲ概観スルニ男子女子共ニ始メ顯著ナル體重減少ヲ示シタルモ其ノ後ハ順調ナル増加ノ趨勢ヲ持續シ第一回検査並最終回検査ヲ波頂トシ農繁期直後ノ検査ヲ波谷トセル週期ノ大ナルV字型波狀曲線ヲ描ケリ



兩區男子ニ就キテ體重増減ノ趨勢ヲ考察スルニ多井戸區男子ハ改善直後二・三%ノ上昇ヲ示シタルモ農繁期直後ニ於テハ一・三%ニ減降シ其ノ後再ビ順調ナル上昇ヲ示シテ結局一ケ年ニシテ體重増加六・四%ニ及ビタリ、對照區男子ハ農繁期直後ニ於テ〇・九%ノ減降ヲ示シタルモ其ノ後順調ナル上昇ヲ示シ結局十ヶ月ニシテ體重増加三・九%ニ及ビタリ、即兩區トモ五月下旬ヨリ七月中旬ニ互ル農繁期労働ノ影響ニヨリ略同様ノ減少並増加ノ趨勢ヲ辿リタルモノニシテ其ノ傾向ヲ示シタルハ兩區ニ於ケル労働ノ程度―仕事量、緊張度、疲勞度等ガ略同様ナルヲ示スモノナリ

而シテ對照區男子ガ労働ノ強化ヲ主タル原因トシテ負數ヲ示シタルニ反シ多井戸區男子ハ負數ヲ示サザリシハ榮養給與ノ充實シタルコトガ能ク労働強化ニヨル負數ヲ防ギタルモノト云フベシ、對照區即一般農村民ハ農繁期其ノ他激労働時ニ於テハ各個ノ體重ヲ維持スル必要且充分ナル榮養ヲ攝取セザルハ明カニシテ、斯クテハ充實シタル生産力ノ伸長モ期待シ得ベカラズ、而カモ其ノ體重ノ減少ハ榮養ノ如何ニ依リ或ル程度迄防遏シ得ルモノナルコトヲ證明セリ、兩區女子ニ就キテ體重増減ノ趨勢ヲ考察スルニ、多井戸女子ハ改善直後三・〇%ノ上昇ヲ示シタルモ農繁期直後ニ於テハ二・八%ニ減降シ其ノ後再ビ順調ナル上昇ヲ示シテ結局一ケ年ニシテ體重増加八・九%ニ及ビタリ、對照區女子ハ農繁期直後ニ於テ一・九%ノ減降ヲ示シタルモ其ノ順調ナル上昇ヲ示シテ結局十ヶ月ニシテ體重増加三・三%ニ及ビタリ、即チ兩區トモ五月下旬ヨリ七月上旬ニ亘ル農繁期労働ノ影響ニ依

リ略同様に減少並増加ノ趨勢ヲ辿リタルハ男子ニ於ケルト同様ナリ、而シテ茲ニ特異トスルハ對照區女子ガ農繁期勞働強化ニ際シ一・九%ノ體重減降ヲ示シタルニ反シ多井戸區女子ガ僅カ〇・二%ノ減降ヲ示シタルニ止マリタルハ注目ニ價ヒス、右ノ著明ナル差異ヲ考察スルニ多井戸區ニ於テハ農繁期中共同炊事ヲ實施シタル爲婦人ノ勞力消費ヲ激減セシメタル上榮養ノ給與ノ充分ナリシコトガ斯カル僅少ナル體重減少ヲ以テ終始シ得タルモノニシテ、榮養ヲ基調トシタル共同炊事ガ婦人勞働ノ體重減少ニ及ボス影響ヲ少ナカラシムルニ對シ如何ニ效果的ナルカヲ證スルモノナリ、更ニ多井戸區男子女子ニ就キテ比較スルニ、男子ハ農繁期後ニ於テ著明ナル體重減少ヲ示シタル後増加ノ趨勢ヲ維持シ結局六・四%ノ増加ヲ示シタルモ女子ハ農繁期後ニ於テ僅少ナル減少ヲ示シタルノミニテ其ノ後ハ増加ノ趨勢ヲ維持シ結局八・九%ノ増加ヲ示シタル爲、全般ニ於テ女子ハ男子ニ比シ二・五%ノ優位ヲ示シタリ、然ルニ對照區ノ男子女子ニ就キテ比較スルニ男子ハ農繁期後ニ於テ著明ナル減少ヲ示シタル後増加ノ趨勢ヲ維持シ、結局三・〇%ノ増加ヲ示シ、全般ニ於テ女子ハ男子ニ比シ〇・九ノ劣位ヲ示シタリ

多井戸區ニ於テハ女子ハ男子ヨリ優位ヲ示シタルニ反シ對照區ニ於テハ女子ハ男子ヨリ劣位ヲ示シタル此事實ハ特ニ注目ニ價ヒス、右原因ヲ考察スルニ對照區即一般農村婦人ハ男子ニ比シ其ノ日常生活ニ於テ炊事、洗濯、育兒、裁縫、掃除等ノ煩ハシキ家事並生産ヘノ勞働ガ婦人ノ生理的特質ノ

上ニ二重三重ノ桎梏ヲ與ヘ特ニ榮養給與ノ不充分ナルコトガ斯カル減少ヲ示スモノニシテ、斯クテハ充實シタル生産力ノ伸長ハ勿論體位ノ維持スラ困難ニシテ死産數ノ多キ、乳兒死亡ノ多キコト亦當然ナリト言ハザルベカラズ、而モ其ノ體重減少ハ榮養改善特ニ共同炊事ニヨリテ少カラシムルヲ得ルハ前述ノ如ク實證セラレタル所ナリ

(2) 體質ニ及ボセル影響

榮養改善ガ疾病ノ増減ニ及ボセル影響ヲ觀察スルニ改善前身體檢查人員一三四人ニ對シ寄生蟲病ヲ除キ疾病數一八三症ニシテ一人平均一・三七症ナリシガ改善後同シク寄生蟲病ヲ除キ疾病數二二四ニ減ジ一人平均〇・九五症トナリ、改善後ノ減少數五二症(一人平均〇・四二症減)ニシテ改善前ニ比シ三分ノ一減少ヲ示セリ、其ノ減少ノ主タルモノハ年少者ノ扁桃腺炎、氣管支炎、感冒、頸部淋巴腺炎及肺結核等ノ呼吸器疾患並年長者ニ於テハ胃腸疾患ニシテ榮養法ノ變換ガ直接體質ノ改善充實ヲ促シタルコトヲ證明シ得ラル

(3) 榮養改善ノ能率ニ及ボス影響

前述ノ如ク榮養改善ニ依リテ體力充實シタルヲ以テ當然日常ノ勞働能率ニ對シ何等カ良好ナル影響ヲ及ボスコトハ期待セラルル所ナリ、而シテ之ヲ農家勞働トシテ數字的ニ表明スルハ不可能事トスルモ、多井戸區ノ改善ト時ヲ同フシテ改善ヲ實施シタル眞榮製絲工場ニ於テ繰絲能率二二・五九%

ノ上昇ヲ見タコトニヨリ間接ニ推定シ得ラル、又日常區民ノ説ク所ニ依レバ改善後空腹時ノ勞働ニ堪ヘ得ラルト云フ

(4) 榮養改善ノ經濟ニ及ボス影響

榮養改善ノ結果經濟ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤニ付多井戸區中流ノ一農家ニ就キ一消費單位實際支出食費(現金支出)ヲ調査シタルニ昭和五年度ハ一八・二三圓昭和六年度ハ一四・七八圓昭和七年度ハ一四・一七圓ニシテ榮養改善ヲ實施シタル昭和七年度ハ農作物不作ニシテ特ニ緊縮シタル昭和六年度ニ比シ〇・六一圓ノ減少ヲ示シタリ、即チ榮養改善ニヨリ特ニ經費ノ負擔ヲ増加スルモノニアラザルコト明カトナレリ、又二月二十五日ヨリ七月十三日ニ亙ル五十日間百三十二回ノ共同炊事中心ノ消費單位一食當購入食品負擔額(副食物ノミノ現金支出額)ヲ計算スレバ僅カ〇・〇〇四五圓ノ少額ニテ足レリ

保健衛生費ニ於テハ昭和七年度ハ前年度ニ比シ二三%ノ減少ヲ示シタリ(保健衛生費ノ内譯ハ醫療費、賣藥購入費、石鹼齒磨等ノ購入費ナリ)

以上本榮養改善ガ農村民ノ生活ニ如何ナル影響ヲ及ボシタルヤヲ總括スレバ

- 一、顯著ナル體位ノ向上ヲ示シタルコト、竝呼吸器疾患、消化器疾患ノ著明ナル減少ヲ示シタルコト

二、體力ノ充實シタル結果必然的ニ勞働能率ヲ増進シタルコト

三、而モ經濟的ニハ榮養改善ニ依リテ何等特別ノ支出ヲ要セザリシコト

四、和氣協調ノ風大ニ舉リタルコト等ナリ

近年「自力更生」ノ云爲セララルヤ、農業經營ニ於ケル諸般ノ施設ノ檢討、改善ヲ見ツツアルハ寔ニ其ノ要ヲ得タルモノナリト雖モ、先ツ農民ヲシテ其ノ勞働能力ヲ最高度ニ發揚セシメントセバ一般健康増進ノ方途ヲ確立セザル可カラズ、乃チ本村落榮養改善一ケ年ノ經驗ニ鑑ミ之ヲ更ニ精練シテ最モ效果的ニ多數農村ニ就キテモ亦之ヲ實施スルコトヲ得テ皆其ノ喜ビヲ一ニセムコトヲ希望シテ已マザルモノナリ

一、右報告ニツキ質疑應答アリタル後此ノ如キ施設ヲ始メ農村榮養狀態ノ改善ヲ圖ルハ現下ノ急務ナルヲ以テ、本特別委員會ノ決議ヲ以テ保健衛生調査會長宛後日文案ヲ作成シテ建議ヲナスコトニ決定午後四時散會、其ノ提出アリタル建議書次ノ如シ

農村榮養改善ニ關スル建議

榮養狀態ノ改善ガ保健上、能率上、經濟上ニ良好ノ影響ヲ及ボスコトハ曩ニ内務省助成ノ下ニ實施セ

ル群馬縣下多井戸部落ニ於ケル農村榮養改善施設ノ實績ニ徴スルモ其ノ一斑ヲ窺知スルヲ得ベシ我ガ
國人口ノ大半ヲ占ムル農村住民ノ榮養狀態ハ因習日久シク動物性食品ノ缺如セルコト、偏食ニ陥リ易
キコト等缺陷多大ニシテ農村疲弊ノ今日深ク寒心ニ堪ヘザルモノアリ依テ政府ニ於テハ之ガ改善ニ關
シ速ニ適當ノ方途ヲ講ジ以テ憂慮スベキ農村衛生狀態ノ改善ニ資シ併セテ農村振興ノ一助タラシメラ
レムコトヲ望ム右本特別委員會ノ決議ニ依リ別紙報告書相添ヘ此段及建議候也

昭和八年七月七日

農村衛生狀態改善ニ關スル

特別委員長伯爵 柳澤 保

保健衛生調査會長 男爵 山本達雄殿

二、結核豫防ノ根本的對策ニ關スル特別委員會

第七回

昭和八年四月十一日午後二時ヨリ内務省會議室ニ於テ開會

出席者 金杉委員長

宮川、佐伯、栗山、宮島、古瀬、田澤、國府田、馬淵、合田、西野、中川(代理)、

原各委員

白松、高野、野邊地各幹事

樫田、内藤、佐藤(秀)各技師

勝俣、草間各防疫官

議事ノ經過

一、委員長 本日ハ結核豫防ノ根本的對策トシテ結核病床増加ノ件ニツキ委員各位ノ意見ヲ伺ヒタシ
ト述べ、高野幹事ヨリ一應ノ説明アリ之ニ基ツキ種々意見ノ交換ヲ行ヒ午後三時三十分散會

第八回

昭和八年五月二日午後二時十五分ヨリ内務省會議室ニ於テ開會

出席者 金杉委員長

富田、宮川、北島、佐伯、唐澤、栗山、宮島、古瀬、田澤、國府田、馬淵、矢野、

西野、平井(代理)、大島各委員

高野、野邊地各幹事

佐藤(正)、佐藤(秀)各技師

勝俣、草間各防疫官

議事ノ經過

一、前回ニ引續キ結核病床増加ノ件ニツキ各委員ヨリ種々意見ノ交換アリ、之ハ重要案件ナルヲ以テ小委員ヲ舉ゲテ審議スルコト、シ委員長ヨリ左ノ八氏ヲ小委員ニ指名シ午後三時三十分散會

北島委員

古瀬委員

田澤委員

國府田委員

合田委員

中川委員

平井委員

大島委員

第九回

昭和八年六月十四日午後二時十五分ヨリ内務省會議室ニ於テ開會

出席者 金杉委員長

富田、宮川、北島、佐伯、唐澤、宮島、古瀬、田澤、國府田、馬淵、西野、中川、

山川男、原、平井、大島各委員

高野、南崎各幹事

樫田、佐藤(秀)各技師

議事ノ經過

一、北島小委員長ヨリ結核病床増加ノ件ニ關シ小委員會ノ經過並結果ヲ報告シ之ニツキ審議ヲ重ネ字句ノ修正ヲ行ヒタル上別紙ノ通り可決

一、次ニ健康相談所擴充ノ件ヲ附議シ、相談所ノ名稱ニツキ考慮スルコト、名實相添フ如キ施設タラシムベキコト、其ノ他意見ノ開陳アリ小委員ヲ舉ゲテ審議スルコトニ決シ委員長ヨリ左ノ八氏ヲ之ニ指名シ午後四時散會

北島委員

宮川委員

古瀬委員

田澤委員